

私たちは今、新型コロナウイルスという人類に対する最大の脅威に脅かされ、社会的にも大きな変革を求められています。こういった社会状況だからこそ、もう一度「幸せ」ということについて考えてみたいと思います。

70歳を過ぎた頃から、自分の人生は幸せ、豊かだったのかなと考えるようになりました。若いときは、自分でなんでも考えて動くことができ、そのことに満足、幸せと感じていたように思います。今考えると便利さを幸せ・豊かさとして勘違いしていたような気がします。でも、私が幸せだったかといえば、いろいろな方々にご迷惑をかけながらでも、やりたいことできた時代であり幸せだったと思っています。

私は道路整備に長年かかわってきましたが、人々の幸せ、豊かさの追求というより、車の速度を上げ沢山の車を通すことに注力し満足していたような気がします。ある本に車は、人間がマシンガーZのような道具を手に入れたものだと書いてありました。道具は人の手足の延長です。人間がいくら早く走っても100m10秒程度です。時速に直すと36kmです。しかし、車を使うと高齢者でもちょっとアクセルを踏むと36kmなんて軽くスピードがでます。人間が強くなった、マシンガーZになったという錯覚に陥ります。本来であれば強いものは弱いものをかばう、労わらなければなりません。早さや強さを手に入れ優しさを忘れてしまったような気がします。

街を考えると駐車場の少ない中心市街地より駐車場が整備されている郊外の大型ショッピングセンターの方が魅力的です。ショッピングセンターはコンパクトなコーディネートされた街です。近年、中心市街地では空洞化やスポンジ化が急激に進みました。しかし、中心市街地を車でなく歩くと景色、空気が全く違って見えてきます。車だと駐車場を探す

ことに気を取られ、中心市街地のもつ魅力を感じる間はありません。ところが歩いてみると、街の空気、風や匂い、音など街を五感で感じることができます。「物を買う」だけでなく、五感により「ことを買う・感ずる」また人と関わることにより豊かさや幸せを感じるのだと思います。人と関わるのが少なくなると、他の人の立場にたつてものごと考えるなどの“優しさ”が失われるとも言われています。

先日読んだコラムに“収入や財産、社会的地位といったものによる幸福感は一過性で長続きしない。一方、心と体、社会が良い状態にあることで得た幸福感は持続性が高い。具体的には他者とのつながり、健康、愛情、自由などがある”とのこと。お金や便利さをすべて否定するつもりはありませんが、やはりバランスのある暮らしが人を幸せ、豊かにするのでしょね。

今、新型コロナウイルスによるパンデミックの発生により、これまでのようなコンパクトな暮らし方を目指した時代から、他の人との間合いを取った暮らし方と真逆の暮らし方が求められ、その中で幸せや豊かさを実現していくこととなります。

新型コロナウイルス後、世界がどうなるのだろうということが人々の関心を集めています。最近読んだ認知心理学者スティーブン・ピンカーの本（21世紀の啓蒙）に「それでも人間の本性には、不利な条件の中で道を切り開く能力が備わっている。私たちは共感力から他者の憐れみを想像し、思いやり、同情する力を持っていて、そのおかげで心に深みを持つ」という一節が心に残りました。

若い人たちは必ず、これからの大変な時代の中でも賢く新たな幸せや豊かさを模索し、“幸せ”な社会を再構築してくれるものと信じています。